

〔伊呂波字類抄地儀〕岳正作嶽 壠 丘古文作其或說俗呼 嶽 岡俗作罌 阜阜陵阜曰阜又 墟  
也 大丘 陵 已上同 巒小山而銳也

〔運歩色葉集遠〕岡嶽 嶽 嶽 丘 壑

〔書言字考節用集乾坤〕岳廣雅山者名丘詳風俗通 岡說文山丘見上周禮註阜釋名土阜曰阜 阜陵釋名大阜曰阜

〔東雅地〕丘ヲカ 義詳ならず略 中 上古は丘をばヲと云て、谷に對し言ひけり、八岐大蛇、蔓延于

八丘八谷之間、味耜高彥根神、映于二丘二谷之間といひしが如きこれなり、ヲカといひ、タニといふ、轉語なり、丘

ふは、起オキと絶ツツといふの謂にて、山起立ち、山隔絶つ義なるべし、タチといひ、タニといふ、轉語なり、丘

讀てヲといひしを、また尾の字を假りてヲと讀む、舊事紀に見えし八丘八谷の字、古事記には八

谷八尾と云るせしが如きこれなり、後人尾上と云るしてチノへとよ、其後丘陵岡岳等の字讀て

并にヲカといふ事になりて、峯嶺の字讀てヲといふ事にもなりたり、

〔倭訓栞前編五〕をカ 岡をいふ、小高の義にや、新撰字鏡に坵も陵もよめり、岳も同じ、倭名抄に訓

與丘同と見ゆ、俗に陸ををカといへり、安藝に其上といふを、其をカといへり、

〔枕草子十〕をカは

ふなをカ、カたをカ、ともをカは、さ、のおひたるが、をカしき也、カたらひのをカ、人見のをカ、

〔興義抄上ノ末〕出萬葉集所名 普通名所不注

岳

むかひのをカ な、しのをカ ゆき、のをカ さ、のをカ ちげをカ いはしろのをカ

ゐがひのをカ さたのをカ まゆみのをカ あとみのをカ

〔藻鹽草四〕岡名所

おかひおおかおかべか けた岡 かの岡草かは、たおのこ、おか也、岡こえ 卯花のさきちる岡 む